

# 合格者の声

今年多くの皆さんから喜びの声が寄せられています。

**堀米 畏さん**

◆Erich-Kaestner-Gymnasium Koeln  
(ドイツ)

東京大学文科三類教育学部(外国学校卒業特別選抜)



[他合格: 横浜国立大学GBEEP・慶應大SFC]

\*TOEFL iBT: 115

**トフルゼミナールに入学しようと思ったきっかけから聞かせてください。**

高校2年生のときに、ドイツで開かれたトフルゼミナールの説明会に参加したことがきっかけでした。現地での成績も決して良かったわけではない中、自分のできることや、頑張ってきたことが活かせそうな受験形態を多數紹介していただきました。しかし、結局ドイツの高校を6月に卒業するまでに日本の大学への進学の意志が固まらず、8月になってやっとトフルゼミナール入学を決めました。

**日本に来ようと思ったきっかけはなぜですか。**

ドイツで生まれ育ってきた私は、中学3年生のときに日本の高校受験をするための準備期間として、日本に3ヶ月ほどの短期留学をしています。高校受験は無事に合格しましたが、事情があり入学はできませんでした。そういったこともあり、私は本やアニメなどを見て、経験したことのない日本の学生生活がどんなものかを想像し憧れを抱いていました。

しかし一番の理由は、日本人としてドイツで生きてきた自分の“本当の居場所”を探したかったからなのかもしれません。ドイツでは日本人であり、夏休みに来日してもドイツから来た人としか扱ってもらえない日々は、自分では平気だと思っていたが、やはり無意識的に苦痛だったのだと思いました。

結局、現在の大学生活の中でも、やはり私は自分の居場所を見つけることはできていませんし、ドイツが恋しくなることの方が多いですが、それこそが私のこれから可能性に繋がっていくことを期待しています。

**学部選びについて聞かせてください。**

私は一浪しているので学部選びを2回しています。1回目は上記の通り8月になってから始めたので、私立の帰国子女入試はほぼ間に合わせ、国公立大学もギリギリのところが大多数でした。経済的な理由で私立大学は除外しており、ドイツではそれなりのケルン大学に在籍していたこともあって、日本の大学に行くのなら旧帝大レベルの国公立大学が良いと思っていました。

数学が学年でトップレベルだった私は北大の数学科、そして東大の経済学部を受けることにしました。

2回目の学部選びもとても大変でした。浪人時代は個人的な事情とコロナ禍の影響で、つらい時期が7~8月まで続きました。最後に北大と横浜国大、京大と、第一志望の東大受験を決めたのが出願締切ギリギリの10月でした。慶應SFCの受験を決めたのは1月に入ってからです。

学部選びの基準は、受験形態が小論文と面接であることでした。小論文だけを頑張ればよかつた上、自分の生き様が一番表現できるのが小論文だからです。唯一慶應だけは面接がなく、その代わりに英語の試験がありました。わざわざ言うことではないですが、学部は早い時点で決め、出願書類や資格試験の点数を上げることに注力しましょう。

余談ですが、北大は2次試験で落ち、京大は受験日が東大とかぶったため書類選考は受かっていましたが受験しませんでした。他の受験校は全制覇しました。

**受験勉強で苦労したのはどんなところですか。**

私が受験勉強で最も苦労したのは小論文です。当たり前ですね、それしか勉強していないのですから。まずは本を大量に読み、知識を漁り、どんなテーマについてでも自分の考えを綺麗にまとめられるようにしました。その結果、小論文をある程度のレベルでかけるようになり、横浜国大のGBEEPに合格することができました。

しかし、そこからの上達が難しく東大合格には不十分でした。それは自分の文章に面白さがなかったからです。面白さと

は一体何なのか。この疑問が解けたら東大帰国子女入試の合格者は著しく増えるでしょう。私には解けませんでした。

**どう乗り越えましたか。**

私は、トフルゼミナールの講師の方に勧めていただいた「大人になるためのリベラルアーツ」という本とその続編を読み込みました。東大で行われた授業の記録として書かれたこの本は、あらゆる社会問題に対するクリティカルシンキングの仕方のお手本が描かれています。この本を個人的なバイブルとし、常に批判的思考ができるようすべての物事に対して批判的な視点をもって取り組みました。そうすると小論文が自然と面白くなっていきました。これが正解なのかはわかりませんが、この本のおかげで合格できたことは間違いありません。本当にありがとうございました。



入試において上達するための一番大事な要素は、自分の弱みを正確に知ることです。一般入試でも帰国子女入試でもそれは同じですが、後者で特別なところはその克服方法が決まっていないことです。今まで積み上げてきたものを信じて、自分なりの正解を見つけて頑張るしかないのです。

**TOEFL Testの点数をどうやって上げたのですか。**

浪人前にはIBTで107というスコアをすでに持っていたのですが、2021年度外国学校卒業学生特別選抜での一次選考不合格の結果を受けて、TOEFL Testを受け直すことを決めました。個別でスピーキングとライティングの対策を2週間受け、挑んだスコアは108点(R23・L30・S30・W25)でした。

2セクションで満点をとっているのにもかかわらず一点しか上がっていないことが悔しかったのですが、東大や北大、横浜国大の出願締め切りまでにもう一度受ける余裕はありませんでした。しかし、京大の出願のためにもう一度TOEFL Testを受験したところ、115点という高得点を取ることができます。

リーディングに関して、私は単語を覚えることに時間を割かず、ラテン語の言葉の成り立ちを覚えて、知らない単語は意味の推測することで勉強時間を短縮しました。リスニングはさまざまやり方があると思いますが、私はメモを取らず話の流れを覚えるようにしました。過去問を多く解いていると聞かれる問題が段々とわかってくるので、メモを取る必要性がなくなってきます。それよりも大事なことは、次のリスニングが始まる前に前の内容を忘ることです。

スピーキングとライティングは、明確な採点基準がないため採点者の采配によって点数が変動します。そのため対策をすることが難しく、初めは無難に定型文などを覚えていました。しかしそれでは高得点が取れないので、スピーキングではネイティブ並みにしゃべれること、ライティングでは“良い”エッセイが書けることを意識して勉強しました。これにあたってはネイティブの先生のすべてを盗むのが一番楽でした。

**将来してみたいことは何でしょうか。**

私の目標は日本の教育の在り方を変えること、将来の夢は私立の学校を開くことです。モンテッソーリ小学校に通っていた私は、受験勉強を経て日本の教育の実態を知り、これを変えたいと強く考えました。現在の日本の詰め込みでは、教育の“教”こそ実践されても“育”が欠落しているように感じています。

この状態を変えるべく、比較的自由度が高い日本の初等教育に着目して、自分で考えることができる人材、これからとの社会に対応できる人材を育てるような教育を創っていく—その手始めとして東京大学でさまざまな分野を幅広く勉強し、自分の夢と目標に向けて頑張っていきたいと考えています。

**後輩へのメッセージをお願いします。**

私は「努力次第で何でもできる」という言葉が嫌いです。努力はすべての前提であるべきだからです。それを踏まえて聞いてほしい言葉があります。「不可能はスタートラインに立てば夢になり、それに向かって歩き出せば目標になる」。天才でも何でもなく、ただ要領よく20年間を生きてきた私たちの最大のアドバイスです。

